

2010 年度 人間科学研究所 戦略的研究基盤形成支援事業 活動報告書

2011 年 3 月 14 提出

1. 研究チーム代表者	所属 文学部 学部 職名 教授 氏名 望月 昭
2. チーム名称	就労支援
3. 研究活動実績(200～400字程度)	
当チームは、「障害」のある個人、少数派外国人を含めたコミュニケーションのバリアを被っている個人、そして長期にひきこもりの成人などを対象に、大学に設定された新しいハード・ソフトな資源を活用し広義のキャリア支援の方法を探ると同時に、「援助」という関係的行為における社会心理学的な要因を探ることを目的としている。 望月は、学内で設定した模擬的店舗「CAFÉ RITS:カフェリッツ」を用い、総合支援学校高等部の生徒を対象に、構造化されたデザインの下でそれぞれの生徒における就労行動の支援方法、そして「情報蓄積と移行」チームと連携し、継続的支援を可能にする「ポートフォリオ」の書式と機能について実践的に検討した。 八木らの小グループは、支援を受け入れる側の心理として対人認知に関する実験的研究を蓄積している。人は、自分自身とおなじネガティブな特徴(例えば、攻撃性が高い)を持っている他者の存在に対して、その他者との類似性を否認する、言い換えれば心理的に距離を置こうとすることが実証されている(Schimmel et al, 2000)。この現象が再現されることを確かめたうえで、この心理的距離の防衛を生じさせない可能性のある条件について実験を行った。また、苦境にある他者に対する共感に重なる類似性の否認・心理的距離についても行った。さらに、他者の行動に関する情報が入力されたとき、人は自発的・自動的に対象他者の特性や目標を推論することが知られている(Winter & Uleman, 1984)。この自発的推論過程を検証しようとする研究を始めた。 小澤は、滋賀県湖南市教育委員会と連携し、初期日本語教室「さくら教室」で学ぶ外国人児童に対して、①フラッシュカード(約800語)、②基本構文、③国語教科書(1、2年版)より8編、④オリジナルテキスト1編の多言語DAISYテキスト(日本語と英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語)を開発した。さくら教室の公開授業、湖南市日本語教員研修会などを通じて、実践的に支援のあり方を検証した。	